

福岡みらい病院で

脳深部刺激療法を受けられた患者様へ

当院機能神経外科では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の連絡先にお問い合わせください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありませんのでご安心ください。またご希望により、この研究に参加して下さった方々の個人情報保護や、この研究の独創性確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。この研究は当院の倫理審査委員会の審査を経て、院長の許可を受けて実施しています。

研究課題名	脳深部刺激術後のリード周囲脳浮腫の発生頻度とリスク因子に関する前向き多施設観察研究
当院の研究責任者（所属） 本研究の目的	宮城 靖（機能神経外科） 脳深部刺激療法 (DBS) は、パーキンソン病や他の不随意運動疾患に対して効果的な治療法ですが、DBSに関連して生じる電極周囲の脳浮腫や嚢胞は、患者さんの回復と長期的な予後に影響を与える可能性があります。これらの発生頻度やリスク因子はよく分かっていません。本研究の目的は、①DBS手術後に発生する脳浮腫（無症候性および症候性）の発生頻度を明らかにし、②脳浮腫のリスク因子を同定、③脳浮腫の発生時期と部位を同定、④脳浮腫に伴う臨床症状を評価することです。
調査データ該当期間	西暦 2026年 2月1日～西暦 2028年 7月 31日
研究方法	多施設共同・前向き・単群・観察研究 ●調査の対象となる患者様 福岡みらい病院で上記期間内に脳刺激装置植込み術を行い、深部刺激療法を受ける患者さん <電子カルテに記載された診療情報> 基本情報：年齢、性別、既往・併存疾患、手術ターゲット、既存疾患、手術関連データ（手術時間、微小電極記録の有無、Fiblin glueの有無、術後経過） 画像検査：手術後のCTまたはMRIで脳浮腫の有無、部位、体積 <多施設共同研究研究代表者> 学校法人東京女子医科大学脳神経外科 助教 堀澤士朗
個人情報の取り扱い	対象者のプライバシーおよび個人情報の秘密を守るため、使用するデータは個人を特定できないよう全て匿名化し、研究責任者のもと機能神経外科のパスワードロックされたPC内で厳重に管理します。保管期間は研究終了後 5年間とし、破棄する際はデータを復元不可能な状態に処理して破棄します。
本研究の資金源（利益相反）	本研究の実施にあたり利益相反はありません。 研究参加による謝礼は発生しません。
お問い合わせ先	福岡みらい病院 機能神経外科 電話：092-662-3001（代表） 研究責任者：宮城 靖